

会 議 録

1 会議名

第2回浦川原区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）報告（公開）

ア 会長報告

イ 委員報告

ウ 市からの報告

（2）協議（公開）

・令和3年度浦川原区地域活動支援事業の審査について

（3）その他

3 開催日時

令和3年5月22日（土）午前8時30分から午後6時00分まで

4 開催場所

浦川原地区公民館 講堂

5 傍聴人の数

3人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：相澤誠一、赤川義男、池田幸博副会長、小野正弘、春日清美、北澤誠、北澤正彦、五井野利一、杉田和久、藤田宏禎会長、宮川勇、村松進副会長
- ・事務局：浦川原区総合事務所横田所長、小嶋次長、大橋次長、総務・地域振興グループ北澤班長、向井主任、西條主事

8 発言の内容

【藤田会長】

- ・会議の開会を宣言。
- ・出席者は12人全員。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上が出席しているので、会議が成立する旨を報告。

・会議録の確認：池田副会長に依頼。

【藤田会長】

それでは、次第の「2 報告」に入る。

前回の地域協議会で、今年度の活動計画における自主的審議の検討において、大浦安の学校に関する意見が多く出たことを総合事務所から教育委員会につないでもらった。担当である教育総務課からは、現在、教育委員会として進めている取組などについて地域協議会に伺って説明させていただきたいとの返事があったので、地域協議会の勉強会として6月下旬から7月上旬に開催してはどうかと考えている。事務局と調整して連絡させていただきたい。

続いて、「(2) 委員報告」について、委員の皆さんから報告事項はあるか。

(会場内から「なし。」の声)

無ければ、「(3) 市からの報告」に移る。市から報告事項はあるか。

【大橋次長】

ごみ収集の休止について報告する。区内のごみ収集事業者の社員1人のコロナウイルス感染が確認されたため、5月17、18日のごみ収集を休止させていただいた。区内の皆様にはご不便をお掛けして申し訳なく思っている。ごみ収集事業者では、社員全員のPCR検査を実施し、全員の陰性が確認されたため、19日からごみ収集を再開している。

続いて公の施設の適正配置計画について報告する。

はじめに、この計画については、昨年度、7月の地域協議会で、市全体の「公の施設の適正配置の取組」について皆様に説明させていただき、その後、9月に適正配置計画に登載することを地域協議会の皆様から了承いただいた。そして、市では、令和3年2月に「第4次上越市公の施設の適正配置計画」を公表した。これを受け、総合事務所では、4月28日水曜日に、浦川原区町内会長連絡協議会の総会の場をお借りして、事前に資料を送付させていただいたうえで、町内会長の皆様にご説明させていただいた。

当区で適正配置の対象となっている5つの施設のうち、「谷ゲートボールハウス」、「横住総合交流促進センター」については、計画公表後に改めて説明を行うなど、これまで町内会長をはじめ、該当地域の皆様と協議を重ねて理解を得ていることから、総会の当日は、浦川原区全体に関係する「浦川原運動広場」と「浦川原霧ヶ岳温泉ゆあみ」について、関係者の皆さんとの協議状況などについて詳細に説明させていただき、町内会長の皆様からご理解いただいたことを報告させていただく。これによって、公の施設の適正配置については、ひと通り、浦川原区の皆さんにお伝えさせていただいたと考えている。今後は、所定の準備が整ったものから、順次、諮問の手続きを取らせていただきたい。なお、「谷ゲートボールハウス」

については、国・県との協議に進捗がみられているので、承認を受け次第、できるだけ早いタイミングで諮問させていただく。

【藤田会長】

今ほどの報告について、何か質問はあるか。無ければ、「3 協議」に移る。「(1) 令和3年度浦川原区地域活動支援事業の審査について」、事務局から説明をお願いします。

【北澤班長】

審査説明に入る前に、本日の審査日程について、一部内容を変更したので説明させていただく。最近の市内における新型コロナウイルス感染症患者の発生状況を考慮し、18日の正副会長会議で協議した結果、全体審査の時間を短縮するとともに、全体審査における提案者の待機を取りやめとした。ただし、全体審査の際に確認が必要な場合に備えて連絡を取れるようにしたのでご理解をお願いします。

それでは、資料1をご覧ください。令和3年度の地域活動支援事業は、10団体から12件の事業提案があり、12事業の補助希望額の合計は841万7千円で、浦川原区に配分されている540万円を301万7千円超過している状況である。

次に審査日程について、資料1のとおり、この後、予定では午前9時からプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの持ち時間は、提案数が多かったことから、採択方針で定めている1団体25分から20分に短縮している。提案者による事業説明を10分間、質疑応答の時間を10分間、その後、5分間の個別審査の時間を設ける。

今回は、提案件数が多いことと、プレゼンテーションが午後にもおよぶことから、午前中の8事業終了後、仮に集計を行うため、一度採点票を回収させていただき、午後のプレゼンテーションの際にはお返しすることとする。採点票は最終的な集計で再度確認するので、点数を変更していただいても構わない。

12事業全ての採点が終了した段階で、事務局で集計作業を行い、「採点結果一覧」により合計点数や順位を報告し、その後、全体審査を経て、採択事業を決定していただくという流れになる。なお、提案団体による10分間の事業説明及び10分間の質疑応答の時間は、それぞれ事務局で時間を計測し、合図をした時点で打ち切りとする。質疑応答の途中で10分を経過した場合は、その回答をもって終了とする。

次に実際の審査方法については、前回は説明したことから要点のみとさせていただく。

皆様には、提案書の写しや採点票などを事前にお送りさせていただいた。このうち、採点票は、本日の採点に向けた整理のためにお送りしたもので、これからの審査においては、本日、お手元にお配りした採点票をお使いいただきたい。

本日お配りした採点票の「1 採点対象」欄は、提案事業名と提案団体名をあらかじめ印字しているので、事業名などを確認して個別の審査をお願いします。「2 採点内容(1) 基本審査」は、地域活動支援事業の目的への適合性を判断いただき、適合しない場合は理由を記入していただきたい。「(2) 地域自治区の採択方針」は、浦川原区の採択方針にある「優先して採択する事業」への適合性を記入する。「(3) 共通審査基準」では、①公益性から⑤発展性までの各審査項目において、1から5点の整数で記入する。なお、必要に応じ、個別採点の補助資料として当区独自の「地域活動支援事業共通審査基準の採点にあたっての考え方」をお使いいただきたい。また、(1) 基本審査で適合しないとした場合、この採点欄はすべて0点になるため記入は不要である。最後に、「(4) その他特記事項」については、付帯意見になるような事項など、全体審査において協議すべき意見があったら記入をお願いします。

続いて、担当課所見について説明する。担当課所見とは、提案内容が他の制度によって禁止されていないか、他の補助事業等と重複して補助対象になっていないかなどを確認するため、市の関係各課に所見を求めたものである。今年度は、補助金の重複払いがないと判断できる4事業を除いた8事業について所見を求めたところ、全て「課題なし」という回答であった。なお、担当課からの特記事項については、事業実施の際の参考であることから、その旨を提案団体に通知済みである。なお、「防犯カメラを活用した防犯活動推進事業」については、県の条例及び指針なども送付されているので、本日、参考として配付させていただいた。

最後に、全体審査については、集計結果の報告と合わせ、その際に説明させていただく。説明は以上である。

【藤田会長】

今ほどの説明について、何か質問はあるか。無ければ、資料1 審査日程のとおり、「①提案事業のプレゼンテーション・個別審査」を進めていく。最初の提案者は、「有島自治会」である。「防犯カメラを活用した防犯活動推進事業」について説明していただく。

はじめに簡単な自己紹介をいただき、提案事業について10分以内で説明をお願いします。その後、質疑応答の時間を10分設け、10分経過の合図で終了とさせていただき、質疑応答に移るのでよろしくをお願いします。

【有島自治会】

(自己紹介の後、提案書に沿って説明)

【藤田会長】

今ほどの説明に対して、委員の皆さんから質問はあるか。

【村松副会長】

決算書に共有金の残高約170万円とあるが、これを使用することはできないか。

【有島自治会】

共有金は、自治会の運営のほか、神社の維持管理のための積み立てでもあることから、一部を充てることはできるが、全額使用することはできない。

【春日委員】

パトロールはどのくらいの頻度で、どのような体制で行っているのか。

【有島自治会】

構成員は17人だが、高齢化しているため、過度の負担とならないように月に1回、4人程度で行っている。

【藤田会長】

他にあるか。無ければ、これで質疑応答を終了する。提案された12事業の合計補助希望額は841万7千円で、浦川原区への配分額540万円を超過している。審議の結果、補助額の減額や事業内容を変更して採択する場合があるが、補助額が減額になっても事業を実施するか。

【有島自治会】

採択額に応じて防犯カメラを3基から2基に減らしたりすることはあるが、減額しても事業を実施する。

【藤田会長】

地域協議会として、審査の参考にさせていただく。引き続き、地域の課題解決に向けた取組を期待する。これより、各委員による5分間の個別審査の時間とする。

(各委員による個別審査)

【藤田会長】

続いて、「地域防犯事業」について「顕聖寺見廻り隊」から説明していただく。

はじめに簡単な自己紹介をいただき、提案事業について10分以内で説明をお願いします。その後、質疑応答の時間を10分設け、10分経過の合図で終了とさせていただき、質疑応答に移るのでよろしくをお願いします。

【顕聖寺見廻り隊】

(自己紹介の後、提案書に沿って説明)

【藤田会長】

今ほどの説明に対して、委員の皆さんから質問はあるか。

【北澤誠委員】

ベストやキャップは人数分必要なのか。合図灯は伸縮式とする意味があるのか。

【顕聖寺見廻り隊】

ベストやキャップは活動時、汗をかいたり、雨に当たったりするために衛生面を考慮したのと、隊員に責任を持たせる意味でも、一人ずつに貸与することとしたい。合図灯は、伸縮式のものとはそうでないものと値段があまり変わらなかったため、隊員の意見を参考に持ち運びが容易で、収納に邪魔にならない伸縮式を採用した。

【村松副会長】

ワイヤレスアンプをパトロールで使用するの难道いではないか。ハンドメガホンなどの方が良いのではないか。

【顕聖寺見廻り隊】

ワイヤレスアンプは、見回り活動に使用するのではなく、団体の集会などで防犯の重要性を伝えたりする啓発活動の場で使用するためのものである。

【藤田会長】

他に何か。無ければ、これで質疑応答を終了する。提案された12事業の合計補助希望額は841万7千円で、浦川原区への配分額540万円を超過している。審議の結果、補助額の減額や事業内容を変更して採択する可能性があるが、補助額が減額になっても事業を実施するか。

【顕聖寺見廻り隊】

パトロール活動は実施しており、補助金が減額されても、引き続き、活動を続けていく。

【藤田会長】

地域協議会として、審査の参考にさせていただく。引き続き、地域の課題解決に向けた取組を期待する。これより、各委員による5分間の個別審査の時間とする。

(各委員による個別審査)

【藤田会長】

続いて、「浦川原中学校吹奏楽部支援事業」について「浦川原中学校同窓会」から説明していただく。

はじめに簡単な自己紹介をいただき、提案事業について10分以内で説明をお願いします。その後、質疑応答の時間を10分設け、10分経過の合図で終了とさせていただき、質疑応答に移るのでよろしくをお願いします。

【浦川原中学校同窓会】

(自己紹介の後、提案書に沿って説明)

【藤田会長】

今ほどの説明に対して、委員の皆さんから質問はあるか。無ければ、私から質問する。

今まで、地域活動支援事業で楽器購入の支援を行ってきた。今後、補助金がなくなった場合に同窓会としてどのように吹奏楽部を支援するのか。また、今回、補助希望額が浦川原区への配分額を大きく上回っている状況であるが、楽器購入の優先順位はあるのか。

【浦川原中学校同窓会】

楽器は非常に高額であり、今のところ、同窓会の予算ですぐに対応することは難しいと考えるため、例えば、今後、同窓会で積立をして1つずつ購入していくなどの方法を検討していく。また、今回の提案にあたって、音楽の担当教諭に話を聞いてきた。本日お配りした資料に優先順位を記入してある。吹奏楽の編成を考えると、第4位までの楽器が揃えば活動ができると考えている。

【藤田会長】

他にあるか。無ければ、これで質疑応答を終了する。提案された12事業の合計補助希望額は841万7千円で、浦川原区への配分額540万円を超過している。審議の結果、補助額の減額や事業内容を変更して採択する可能性があるが、補助額が減額になっても事業を実施するか。

【浦川原中学校同窓会】

補助額が減額となった場合に、提案事業の全てを実施することは難しいと考える。先ほど説明した優先順位を考えながら対応したい。

【藤田会長】

地域協議会として、審査の参考にさせていただく。引き続き、地域の課題解決に向けた取組を期待する。これより、各委員による5分間の個別審査の時間とする。

(各委員による個別審査)

【藤田会長】

続いて、「うらがわら雪あかりフェスタ」について「うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会」から説明していただく。

はじめに簡単な自己紹介をいただき、提案事業について10分以内で説明をお願いします。その後、質疑応答の時間を10分設け、10分経過の合図で終了とさせていただき、質疑応答に移るのでよろしくをお願いします。

【うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会】

（自己紹介の後、提案書に沿って説明）

【藤田会長】

今ほどの説明に対して、委員の皆さんから質問はあるか。

【藤田会長】

ゆあみに仮設トイレを設置するとあるが、ゆあみのトイレを利用できないのか。市に相談しているか。

【うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会】

相談していないので、今後相談したいと思う。

【藤田会長】

他にあるか。無ければ、これで質疑応答を終了する。提案された12事業の合計補助希望額は841万7千円で、浦川原区への配分額540万円を超過している。審議の結果、補助額の減額や事業内容を変更して採択する場合があるが、補助額が減額になっても事業を実施するか。

【うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会】

補助金が減額されても、イベントは実施する。

【藤田会長】

地域協議会として、審査の参考にさせていただく。引き続き、地域の課題解決に向けた取組を期待する。これより、各委員による5分間の個別審査の時間とする。

（各委員による個別審査）

【藤田会長】

続いて、「第12回浦川原和太鼓祭」について「特定非営利活動法人保倉川太鼓」から説明していただく。

はじめに簡単な自己紹介をいただき、提案事業について10分以内で説明をお願いします。その後、質疑応答の時間を10分設け、10分経過の合図で終了とさせていただき、質疑応答に移るのでよろしくをお願いします。

【特定非営利活動法人保倉川太鼓】

（自己紹介の後、提案書に沿って説明）

【藤田会長】

今ほどの説明に対して、委員の皆さんから質問はあるか。

【北澤正彦委員】

子ども会員がいなくなったということだが、何か理由はあるのか。団体では、会員を増やすために募集活動を行っているか。

【特定非営利活動法人保倉川太鼓】

子どもたちは、小学生のうちには出てきてくれたが、中学生や高校生になって離れてしまった。募集活動については、小学生にいつでも道場に見学に来てほしいという話をしているが、今後の具体的な方法については、持ち帰って検討する。

【藤田会長】

他にあるか。無ければ、これで質疑応答を終了する。提案された12事業の合計補助希望額は841万7千円で、浦川原区への配分額540万円を超過している。審議の結果、補助額の減額や事業内容を変更して採択する可能性があるが、補助額が減額になっても事業を実施するか。

【特定非営利活動法人保倉川太鼓】

補助金が減額されても、イベントは実施する。

【藤田会長】

地域協議会として、審査の参考にさせていただく。引き続き、地域の課題解決に向けた取組を期待する。これより、各委員による5分間の個別審査の時間とする。

(各委員による個別審査)

【藤田会長】

続いて、「浦川原小学校環境整備事業」について「浦川原小学校後援会」から説明していただく。

はじめに簡単な自己紹介をいただき、提案の事業について10分以内で説明をお願いします。その後、質疑応答の時間を10分設け、10分経過の合図で終了とさせていただき、質疑応答に移るのでよろしくをお願いします。

【浦川原小学校後援会】

(自己紹介の後、提案書に沿って説明)

【藤田会長】

今ほどの説明に対して、委員の皆さんから質問はあるか。

【北澤正彦委員】

浦川原には伝統芸能である月影雅楽もあるが、なぜ和太鼓なのか。この事業は、教育活動の中でどのような位置付けとして実施するのか。

【浦川原小学校後援会】

月影雅楽も候補として考えたが、コロナ禍において歌唱や鍵盤ハーモニカなどの使用が制限される中で、和太鼓などの打楽器を活用することにより、子どもたちの学習の場を継続できると考えた。

【藤田会長】

他にあるか。無ければ、これで質疑応答を終了する。提案された12事業の合計補助希望額は841万7千円で、浦川原区への配分額540万円を超過している。審議の結果、補助額の減額や事業内容を変更して採択する場合があるが、補助額が減額になっても事業を実施するか。

【浦川原小学校後援会】

子どもたちのために必要な事業であると考えており、採択金額によって実施が難しい可能性はあるが、実施したいと考えている。

【藤田会長】

地域協議会として、審査の参考にさせていただく。引き続き、地域の課題解決に向けた取組を期待する。これより、各委員による5分間の個別審査の時間とする。

(各委員による個別審査)

【藤田会長】

続いて、「防災士会だより発行事業」について「上越市防災士会浦川原支部」から説明していただく。

はじめに簡単な自己紹介をいただき、提案事業について10分以内で説明をお願いします。その後、質疑応答の時間を10分設け、10分経過の合図で終了とさせていただき、質疑応答に移るのでよろしくをお願いします。

【上越市防災士会浦川原支部】

(自己紹介の後、提案書に沿って説明)

【藤田会長】

今ほどの説明に対して、委員の皆さんから質問はあるか。

【藤田会長】

防災士会は、市からの要請があって組織されたもので、市からの補助金はもらえないのか。決算書では、上越支部にひとり1,000円の上納金を納め、活動支援金として300円をもらっている。この額をもっと増やしてもらえるように交渉できないか。

【上越市防災士会浦川原支部】

これまでの交渉の結果として、ようやく300円の支援金がもらえるようになった。今後
も交渉していきたい。

【藤田会長】

他にあるか。無ければ、これで質疑応答を終了する。提案された12事業の合計補助希望
額は841万7千円で、浦川原区への配分額540万円を超過している。審議の結果、補助
額の減額や事業内容を変更して採択する場合があるが、補助額が減額になっても事業を実施
するか。

【上越市防災士会浦川原支部】

補助金が減額された場合は、補助金と予算の範囲内で実施する。

【藤田会長】

地域協議会として、審査の参考にさせていただく。引き続き、地域の課題解決に向けた取
組を期待する。これより、各委員による5分間の個別審査の時間とする。

(各委員による個別審査)

【藤田会長】

続いて、「UMAファミリーコンサート事業」について「浦川原音楽協会（UMA）」か
ら説明していただく。

はじめに簡単な自己紹介をいただき、提案事業について10分以内で説明をお願いします。
その後、質疑応答の時間を10分設け、10分経過の合図で終了とさせていただき、質疑応
答に移るのでよろしくをお願いします。

【浦川原音楽協会（UMA）】

(自己紹介の後、提案書に沿って説明)

【藤田会長】

今ほどの説明に対して、委員の皆さんから質問はあるか。

【池田副会長】

ピアノは市の備品であると思う。ピアノの調律は市の予算ではないのか。市に確認したか。

【浦川原音楽協会（UMA）】

確認していないので、市に確認することとしたい。

【春日委員】

チラシの印刷費について、これまでも節減を求められてきたと思うが、今年も前年と同様
のものを作成する予定か。

【浦川原音楽協会（UMA）】

この事業では、にぎやかさや楽しさが伝わるように、4色刷りにしている。

【春日委員】

提案であるが、折込みのチラシを見ている中で、手書きのチラシは目にとまり、興味をひくのではないか。検討していただきたい。

【浦川原音楽協会（UMA）】

検討させていただく。

【村松副会長】

これまでも意見しているが、入場料をとらないのか。

【浦川原音楽協会（UMA）】

店舗などの一部で、有料イベントだとポスターの掲示を断られると聞いており、入場料をとることは考えていない。

【藤田会長】

他にあるか。無ければ、これで質疑応答を終了する。提案された12事業の合計補助希望額は841万7千円で、浦川原区への配分額540万円を超過している。審議の結果、補助額の減額や事業内容を変更して採択する可能性があるが、補助額が減額になっても事業を実施するか。

【浦川原音楽協会（UMA）】

会の成り立ちが地域活動支援事業を活用して音楽イベントを開催する目的で組織された経緯があり、採択金額によって実施が難しい可能性はあるが、実施したいと考えている。

【藤田会長】

地域協議会として、審査の参考にさせていただく。引き続き、地域の課題解決に向けた取組を期待する。これより、各委員による5分間の個別審査の時間とする。

（各委員による個別審査）

審査日程のとおり、午前中に予定していた8事業のプレゼンテーションが終了した。ここで休会し、休憩時間とする。休憩中に事務局が8事業分の採点票の仮集計を行うため、一度採点票を回収させていただく。再開は午後1時30分とする。

（休会、午後1時30分再開）

【藤田会長】

地域協議会を再開する。

「イベント・会議等に係る地域活性化事業」について「特定非営利活動法人夢あふれるま

ち浦川原」から説明していただく。

はじめに簡単な自己紹介をいただき、提案事業について10分以内で説明をお願いします。その後、質疑応答の時間を10分設け、10分経過の合図で終了とさせていただきます、質疑応答に移るのでよろしくをお願いします。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

(自己紹介の後、提案書に沿って説明)

【藤田会長】

今ほどの説明に対して、委員の皆さんから質問はあるか。

(質問なし)

質問が無いようなので、これで質疑応答を終了する。提案された12事業の合計補助希望額は841万7千円で、浦川原区への配分額540万円を超過している。審議の結果、補助額の減額や事業内容を変更して採択する可能性があるが、補助額が減額になっても事業を実施するか。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

採択金額によって実施が難しい可能性はあるが、実施したいと考えている。

【藤田会長】

地域協議会として、審査の参考にさせていただく。引き続き、地域の課題解決に向けた取組を期待する。これより、各委員による5分間の個別審査の時間とする。

(各委員による個別審査)

【藤田会長】

引き続き、「特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原」から、「印刷等に係る地域活性化事業」について説明していただく。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

(提案書に沿って説明)

【藤田会長】

今ほどの説明に対して、委員の皆さんから質問はあるか。

【北澤誠委員】

年間の需要はある程度予測はついているか。1枚で印刷を頼んだ場合、いくらぐらいするのか、分かる範囲でお答えいただきたい。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

印刷機は非常に高価なものであり、何十年経っても元はとれないだろうと話をしている。

実際に、業者や大島区にも機械があるのだが、格安にやってもらっている。当法人にこの印刷機を設置することによって、住民サービスとして、各種団体に非常に効果的に使っていただくことで、お金にかえられない効果があると思っている。

【春日委員】

提案書の中に、地域住民から横断幕等の作成依頼が数件きたとあるが、どのような場面で使われたのか。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

私が把握している中では、菱田町内会で10月に横断幕を作ったり、今年は中止したが、新年祝賀会の次第を大洋紙の大きさで表示するとか、月影の郷でも月影芸能祭りで横断幕を作成している。

【池田副会長】

法人には大判プリンターはないのだが、依頼があった際に窓口となり、三和区や大島区の振興会に行ってプリントしてきたことが3、4回あった。先日も依頼があり、大島区に行って作ってきた。

【小野委員】

私が知る限りでは、インクジェットプリンターは、使わないとインクが劣化していくという特性があり、仮にそちらで購入したとしても、使う頻度が少ないと劣化し、インクも替えなければいけない。そのインクもかなり高額になるのではないかと思うが、維持管理はどのように考えているか。コロナ禍において、イベントが少ない中でどうしても必要なものなのかということも疑問に思う。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

皆さん方も家庭用のプリンターをお持ちだと思うが、カラー印刷をするとインクの消耗が激しい。小野委員がおっしゃるようにインクのメンテナンスは必要になると思っている。インクの管理方法について、当分使用しない場合は取り外したり、キャップをしたりなどの対応をしていきたいと考えている。

【藤田会長】

他にあるか。無ければ、これで質疑応答を終了する。提案された12事業の合計補助希望額は841万7千円で、浦川原区への配分額540万円を超過している。審議の結果、補助額の減額や事業内容を変更して採択する必要があるが、補助額が減額になっても事業を実施するか。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

採択金額によって実施が難しい可能性はあるが、実施したいと考えている。

【藤田会長】

地域協議会として、審査の参考にさせていただく。引き続き、地域の課題解決に向けた取組を期待する。これより、各委員による5分間の個別審査の時間とする。

(各委員による個別審査)

【藤田会長】

引き続き、「特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原」から、『「和山・観音堂」トレッキングコース活性化事業』について説明していただく。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

(提案書に沿って説明)

【藤田会長】

今ほどの説明に対して、委員の皆さんから質問はあるか。

【春日委員】

8月、10月にトレッキングまつりを開催するとあるが、まつりというのは、参加者を募るためのネーミングなのか。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

コースを知っていただくための一つの提案である。高齢者が歩けるところもあるので、コース設定を一部変更するなどし、ロープが張ってあるところは避けながら子どもから高齢者まで利用いただけるようなコースにしたい。現在、月影の郷では、上越教育大学附属小学校の4年生が創造活動で月影の郷を訪れて野外で森を中心に活動している。今後、月2回ずつ来る予定なので、このトレッキングコースも子どもたちに知っていただき、自然の豊かさを知ってもらいたいと考えている。まつりというネーミングについては、皆さんに親しみやすい名前とするよう検討していく。

【藤田会長】

他にあるか。無ければ、これで質疑応答を終了する。今年度提案された12事業の合計補助希望額は841万7千円で、浦川原区への配分額540万円を超過している。審議の結果、補助額の減額や事業内容を変更して採択する場合があるが、補助額が減額になっても事業を実施するか。

【特定非営利活動法人夢あふれるまち浦川原】

採択金額によって実施が難しい可能性はあるが、実施したいと考えている。

【藤田会長】

続いて、『宿泊交流施設月影の郷「PRパンフレット作成」事業』について、「月影の郷運営委員会」から説明していただく。

はじめに簡単な自己紹介をいただき、提案事業について10分以内で説明をお願いします。その後、質疑応答の時間を10分設け、10分経過の合図で終了とさせていただきます、質疑応答に移るのでよろしくをお願いします。

【月影の郷運営委員会】

(自己紹介の後、提案書に沿って説明)

【藤田会長】

今ほどの説明に対して、委員の皆さんから質問はあるか。

【池田副会長】

コロナの影響で利用者が減少し、売上がないということが数字から分かる。月影の郷は、地域の雇用に貢献していると思うが、現場からの声があれば、お聞かせいただきたい。

【月影の郷運営委員会】

経営が危ういところもあるが、昨年度はおかげさまで利用客もあり、コロナ対策を講じながら飲食や宿泊も行うことができた。従業員も感染症対策をきちんと講じたおかげで感染することもなく、令和2年度の事業が終わったところであるが、収支決算の結果、会員の手元に行くおこづかいは大変な減額となり、赤字となった。赤字累積になれば倒産と同じことであり、4月には指定管理者をやめようかなという気持ちにまでなった。しかし、市の評価も高く、いろいろな形で支援していただき、減収補てん金もいただいた。コロナの予防接種も始まり、7、8月になれば団体の予約も入ってきているので、先行きが少し期待できるのかなと思う。自前のイベントを計画したりと、今しばらく頑張りたい。

最低でも赤字をカバーしないと、5年間の許可を得ている指定管理者をお断りせざるを得ないだろうと考えている。おかげさまで不満の声は一切なく、コロナが収まることを期待しているようである。ぜひ、皆さん方からもご支援いただきたい。

【藤田会長】

他にあるか。無ければ、これで質疑応答を終了する。提案された12事業の合計補助希望額は841万7千円で、浦川原区への配分額540万円を超過している。審議の結果、補助額の減額や事業内容を変更して採択する場合があるが、補助額が減額になっても事業を実施するか。

【月影の郷運営委員会】

採択いただければ、自前のパンフレットを印刷してPRを行っていきたいと思っているので、審議いただく中で配慮いただきたいと思います。

【藤田会長】

地域協議会として、審査の参考にさせていただく。引き続き、地域の課題解決に向けた取組を期待する。これより、各委員による5分間の個別審査の時間とする。

(各委員による個別審査)

【藤田会長】

以上で、提案のあった12事業全てのプレゼンテーションが終了した。ここで休会し、休憩時間とする。この時間を利用して事務局が12事業分の採点票の集計を行う。記入が終わった方から、事務局に採点票を提出してほしい。また、本日はコロナ対策として、事務局から説明があったとおり、全体審査の時間を1時間に短縮している。現在、予定より早く進んでいるので、再開は午後3時40分としたい。

(休会、午後3時50分再開)

【藤田会長】

地域協議会を再開し、「②全体審査」に入る。事務局から集計結果を説明いただく。

【北澤班長】

今ほどお配りした「令和3年度地域活動支援事業採点結果一覧、採否決定記録票」をご覧ください。(1)地域活動支援事業の目的から(4)特記事項までが、委員の皆さんから個別審査をしていただいた結果である。(1)地域活動支援事業の目的については、個別審査採点票の(1)基本審査とリンクしており、目的と適合すると判断した人が○、適合しないとした人が×で、それぞれの人数を集計した。(2)優先採択方針との適合性については、個別審査採点票の(2)地域自治区の採択方針で浦川原区が優先して採択する事業に適合すると判断した人が○、適合しないとした人が×で、それぞれの人数を集計してある。

次に、(3)評価結果については、個別審査採点票の(3)共通審査基準の審査項目にある①公益性から⑤発展性のそれぞれに1から5点で採点いただいた点数を入力したもので、各項目の合計値、平均値、最高値、最低値の順に集計してある。順位の欄は、各項目の合計点数の合計点数の高い方から低い方に順位付けをしてあり、最も点数の高かった事業は、「うらがわら雪あかりフェスタ」で、次に『宿泊交流施設月影の郷「PRパンフレット作成」事業』というように、数字で順位を表している。

最後に、(4)特記事項については、個別審査採点票の(4)その他特記事項に記載のあつ

た内容をそのまま列記しているので、付帯意見にする必要があるかどうかなど、全体で審査を行う上での参考としていただきたい。説明は以上である。

【藤田会長】

これより、全体審査を行うが、既にこれまでの地域協議会で確認したとおり、提案事業が浦川原区の採択方針に合致しているか、個別審査の結果はどうか、またこれから皆様方からいただく意見を総合的に踏まえて決定していく。委員の皆さんからは、忌憚のない意見をいただきたいと思うが、いかがか。

【五井野委員】

私は5の「第12回浦川原和太鼓祭」の提案団体の代表であるので、この事業に関する直接の発言は控えたいと思う。また、6の「浦川原小学校環境整備事業」について、提案書の中に、私が代表を務める保倉川太鼓の名前が載っていたので発言せざるを得ないだろうと思い、発言させていただく。まず、地域のマイスターに学ぶ会というのは、毎年実施されているクラブ活動のことを指している。私自身この講師を務めて11年目になる。去年までと同じことをされていて、去年までは保倉川太鼓の道場に足を運んでいただき、子どもたちに教えていたという経緯である。今回の太鼓購入はこれとは別で、この太鼓を使ってクラブ活動をするわけではないということであり、学校の備品という扱いになるのではないか。この点が少しわかりにくかったと思う。なお、今回の提案をされる前に私への相談はなかった。

【藤田会長】

他の皆さんはどうか。池田副会長いかがか。

【池田副会長】

まず、今回、300万円オーバーしていることを踏まえ、金額の大小にこだわらず、提案の重みを優先しないといけないと思う。合計値の順位が出ており、1位の「うらがわら雪あかりフェスタ」と2位の『宿泊交流施設月影の郷「PRパンフレット作成」事業』は満額採択としてはどうか。

【藤田会長】

時間も限られているので、私から提案を申し上げる。これをたたき台として議論いただきたいと思う。これは決して押し付けではなく、皆さんと審議をする上での参考であるのでご了解いただきたい。事業番号1の「防犯カメラを活用した防犯活動推進事業」は、141万9千円の希望額であるが、墓地の設置をやめて31万2千円の減額。2の「地域防犯事業」は、39万円のうちワイヤレスアンプよりハンドマイクの方が軽量で安くすむので、これに係る経費21万円を減額。3の「浦川原中学校吹奏楽部支援事業」については、高額な提案

であり、先ほどの事情をお聞きすると4種類の楽器が購入できれば、全員に行きわたるとい
う話があったと思う。修理費については同窓会が負担するというので、ここは140万円
の減額とする。4の「うらがわら雪あかりフェスタ」は、上越市全体の事業であることから
満額採択。5の「第12回浦川原和太鼓祭」は、予算書ではなく、貸借対照表でNPO法人
の法律は通っているということだが、その場その場で運営しているとは到底考えられず、現
金の収支が当然あるわけで、それを拝見したかったが今回は出てこない。おそらく一昨年ま
では提出されていたが、それを出すことによっていろいろと質問が出てくるのでそこを考慮
したのではないかと考えている。私としては、これについては5万円減額したいと考える。
6の「浦川原小学校環境整備事業」については、子どもたちのこれからの将来に期待するとい
うことと、太鼓に触れていただくことは、保倉川太鼓と将来リンクしてくるものだろうと
思う。それに期待して満額採択としたい。7の「防災士会だより発行事業」は、防災、減災
は大事なことであるので、満額採択とする。8の「UMAファミリーコンサート事業」は、
去年はコロナもあったと思うが、準備不足という感じがぬぐえなかった。今年はそれがな
いのだろうと思い、期待も込めて満額採択としたい。9の「イベント・会議等に係る地域活性
化事業」は、皆さんから十分に使っていただけるものであるので満額採択とする。10の「印
刷等に係る地域活性化事業」については、採算はとれないけれども、地域のサービスのため
にやるということであったが、今年度の提案事業が多い中で、私は優先度が低いので不採択
としたい。11の『「和山・観音堂」トレッキングコース活性化事業』は、熊沢町内会で1
0年かかって開通させたものだが、大勢の方が利用されるという時に、案内看板がないと指
摘を受けた。熊沢地内にあるが、当区だけでなく市全体の財産であると考えており、広く皆
さんから利用していただくため、満額採択としたい。12の『宿泊交流施設月影の郷「PR
パンフレット作成」事業』は、学生との交流を深めながら、大変な努力によって全国でも優
秀な成績をあげてこられた実績がある中、コロナで打撃を受けて苦しんでおられることから、
今後のコロナの収束を願って満額採択とする。これまで申し上げた減額分を合計すると30
1万7千円となり、採択額が540万円となるので、これを基礎にして皆さんから検討いた
だきたいと考える。

【相澤委員】

私も有島自治会の防犯カメラについては、1台減が妥当であると考えている。旧国道側の1台
ともう1台の2台ないと意味がないため、墓地の方は町内会でもう少し考えていただきたい。
浦川原小学校整備事業は、練習に使用する太鼓であれば極端に高いものでなくても良いので
はないか。保倉川太鼓のことは発言しないとのことだったが、教材として高級な太鼓が必要

なのかどうか五井野委員の意見を伺いたい。

【藤田会長】

小学校の太鼓のカタログでは竹材を利用しているようで、専門的なことはわからないが、くりぬきではなく練習用ということで解釈したがこの点はどうか。

【五井野委員】

会長がおっしゃるとおり、竹を桶状に張ったものである。カタログを見ていただくと、エコと書いてあるが、竹はいくらでも生えるのでエコと言われている。他の木は伐採や環境森林保護の観点で敬遠されるが、竹については、私は現物を見たことがなく、強度がどのくらいなのか分からない。竹ではなく、本当の木で中国から輸入すればこれより大幅に安いものもある。もう一社の見積もりはくりぬきと書いてあり、本当の太鼓である。ただ、おそらく木材は外国産だと思う。日本産のものだともっと高いので、学校の教材であるからここまではいらないと思う。付け加えると、見積書の中の⑥と⑦以外は保倉川太鼓が所有するもので、それを貸すことで賄える。通年で貸すこともできる。⑥と⑦の締太鼓は貸すことはできないので、本当に必要だったら買うしかないと思う。どのように利用するのか聞いたところ、締太鼓の役目としてそんなに必要ないのではないかとも思われるので、他の太鼓で十分対応可能だと思う。1尺4寸の中国製の太鼓だと5万円ほどである。これは大人にとっては使えないが、小学校の授業であればその程度で十分だと思う。ここに示されたものについては、もう少し値段を抑えて個数を増やした方が良いのではないかと思う。

【藤田会長】

雨の日や持ち運びに大変な苦勞があるようだが、今ほどのアドバイスのように、価格を抑えて数を用意するのも一つの方法ということか。

【五井野委員】

持ち運びはもちろん大変である。大きなものなので、一つでも大人1人はかかる。しかし、保倉川太鼓のものを貸すとすれば、その都度でなくて、学校に保管していただいて構わないということは、一昨日学校にお伝えさせていただいた。事前に相談いただければ、買うのではなく、貸すという手段もあるというお話もできたが、事前にご連絡いただけなかったもので、皆さんと同じタイミングでこの提案書を見て知った次第である。それで保倉川太鼓の名前が出ていたので、正直困惑した1週間であった。

【北澤正彦委員】

先ほど質問させていただいたが、皆さんはこれがどういう目的での事業か理解されたか。学校の運営協議会にも話を通していない、保倉川太鼓にも話を通していない。それを音楽の

授業に入れる、そんなことがあり得るとは思えない。どこから湧いてきた話なのか、ましてや太鼓というものであるのに、保倉川太鼓にも細かい相談もない。買ってどうするのか、質問しても私が理解できる回答ではなかったので、この件については困惑している。この辺を理解できる方がいらっしゃったら、教えていただきたいと思う。

【藤田会長】

小学校については、月影雅楽や保倉川太鼓などの伝統文化を無くしたくないという思いがあるようである。その中で、雅楽については非常に難しさがあって、楽器の種類にもよるのだと思うが、音を出すまでにかかなりの時間が必要である。扱いについても、非常に丁寧に扱わないと、故障や破損が出るという話は聞いている。伝統文化を大事にして子どもたちに体験してもらいたいのだが、そこまで手がのびない。とりあえず、保倉川太鼓に指導いただく形で太鼓を授業の中に入れていきたいとのことであった。北澤委員が言うように、一つひとつの項目について、保護者の了解を得て教育していくという形ではないのだろうと思う。要するにカリキュラムの中の一部として取り扱っているのだろうと思った。

【北澤正彦委員】

ある種カリキュラムの一つとして行うのであれば、学校運営協議会にももちろん話があって、行事も含めて、これが完全に授業として認識するのか、教育委員会の指針のもとに地域の文化を含めた活動の一部としてやるのかということでも随分意味合いも違ってくる。そういうところが何一つ説明されてない。さらに、保倉川太鼓に事前に相談があった上での事業の計画であればよいが、それさえもない状態での事業提案に関しては納得がいかない。会長が言われることは部分的には分かるのだが、この事業に関しては根本が理解できないということである。

【藤田会長】

保倉川太鼓は、今まで年に何回か足を運んでいたと聞いているが。

【五井野委員】

それとこの件とは全く別と考えていただきたい。我々は、学校に足を運んで太鼓を教えない。先ほど会長がおっしゃったように、持ち運びが大変である。毎回、平日の昼間であり、みんなで教えられないので、2人ほどで対応している。そこで先生に了解をいただいて、道場は顕聖寺の川沿いの団地の中にあるので、学校から歩いてすぐである。なので、申し訳ないが歩いてみんなで来てほしいとお願いしている。雨が降ったら迎えに行ったりしていた。ただ、文化祭の時は、発表の場がほしいということで、私たちが全部運んで、そこで太鼓を打ってもらって発表して帰ってくる。これはクラブ活動なので、総合の時間の毎回2限ずつ

もらっており、年5回である。これは春日委員もダンスを教えられていて、それと全く同じ扱いである。ここで太鼓が際立って出てくるのは別問題だと思う。私も、学校に太鼓があれば楽だという話をしたこともないし、いくらでも貸してその場で使っていただくこともできるので、その確認もとらずに急に購入するといっても、買わなくても授業は実施できる。音楽の授業で使うこの個数を私どもは所有しており、子どもが減ってしまったため、子どもが打つ分として買ったものがあるので、これは私たちの所有物であり、学校に通年で貸して保管してもらい、自由に使っていただくことは可能である。

【藤田会長】

まとめるわけではないが、地域の伝統文化体験教室の開催について、「地域の宝」に認定された保倉川太鼓をはじめ、地域のマイスターの技を体験し、その良さを学ぶ場を設定するということであるので、採用に当たっては、この部分を地域協議会で付帯意見をつけて、しっかりと保倉川太鼓の指導を受けていただきたいという形にしたいと思うがいかがが。

【北澤正彦委員】

気持ちは伝わっているのだが、保倉川太鼓の指導をしっかりと受けてくれというのは、これは地域協議会がいう話ではないのではないか。

【藤田会長】

そうではなく、予算を審議しているので、採択するかしないかという話である。

【北澤正彦委員】

減額があつて当然の事業であると思う。少なくとも、太鼓は数を減らして体験的な部分から始めるのであればよいと思う。

【春日委員】

私も同意見である。プレゼンの中で、コロナ禍で歌も歌えない、笛も吹けないという状況で打楽器ならいいのではないかということで、太鼓をもって来たということは納得したが、コロナが収束すれば、今までどおりの普通の音楽の授業が再開されると思うので、この間、太鼓を借りて体験し、これは良い授業になると確信を得たならば独自で購入するなど、段階を踏んだ方がよいと思う。

【藤田会長】

他の委員はいかがか。

【村松副会長】

有島自治会は、共有金がかなりある。70万円くらいを充てても良いのではないか。自分たちの集落のことはまずは自分たちで汗をかいてもらうという思いがあったわけだが、会長

が言われたような数字でも良いのかなと感じている。

小学校の太鼓の件は、私が聞いた範囲では、月影の雅楽は扱いが難しく、小学校低学年では音を出すことができないことが考えられ、一番簡単な太鼓から入っていきたいと聞いている。北澤委員のような指摘があるのは当然かと思うが、おそらく総合学習の中でやると思っており、保倉川太鼓への事前の連絡がなかったことはまずかったと思うが、子どもたちの教育と先生がこれをやりたいという考えがあるわけなので、太鼓を減らすなどの減額はしない方がいいと思う。

保倉川太鼓は5万円の減額と言われたが、私は25万円の減額でいいと思うし、顕聖寺見廻り隊のワイヤレスアンプの分を減らすとハンドマイクを購入することができないので、ハンドマイクのお金をつけた方がいいのではないかと思う。

【池田副会長】

小学校の太鼓に関しては、北澤委員のおっしゃることが正論と認めざるを得ないと考えている。この提案書の本旨、事業の目的及び期待する効果について、内容が皆さんから認められるような文章になっていないと思う。思いだけではだめだと思う。プロセス等も重要で、保倉川太鼓とのすり合わせなど、学校の授業としてやる、やらないというきちんとした位置付けなど、まったく体をなしていないと思わざるを得ない。

【杉田委員】

この小学校の提案は、申し訳ないが不採択とせざるを得ないと思う。次回、2次募集のときに、再考して提案していただきたい。教育活動の詳細な検討が不十分で、熟度が不足していると感じた。教育者であるので上手に答えていたが、ピンとこないということが私でもわかるというような現状からして、五井野委員から安価な太鼓の購入をという助け舟もあったわけだが、出直すべきだろうと思う。

【相澤委員】

杉田委員のいうとおりだと思う。審議の結果、540万円を欠けるようなことがあれば再度チャレンジできるわけで、今度は本当に子どもたちのために、もう少し詰めて、再チャレンジしていただきたい。

【藤田会長】

まとめ役としては、私は教育現場の中まで足をつっこむつもりはないし、そのような経験も資格もないので、これ以上私の方で議論を進めても仲裁はとれないと思う。皆さんの選択の中で、12人中11人が適合するとしているが、杉田委員が言うように不採択とするか。なお、五井野委員が言われたように保倉川太鼓が貸すことができるということでよいか。

【五井野委員】

締太鼓以外は用意できる。先ほどの12人中11人が○で1人が×の1人は私である。意外かもしれないが、一太鼓打ちとしては諸手を挙げて賛成である。小学校の先生が太鼓を授業に取り入れたいというのは非常に賛成であるが、私の地域協議会委員としての立場からは不採択にする案件であると思う。学校の授業に使う備品の購入は、地域活動支援事業に掲げられている、地域の課題の解決や地域の活力の向上にはあたらな思っ適合しないとした。他に、地域を絡めた活動であればいいのだが、今日の説明ではそれがなかった。私が汲み取れなかったのかわからないが、私としては、杉田委員や相澤委員の言うように不採択で良い案件だと思う。

【藤田会長】

確認だが、提案書に記載の太鼓1尺4寸、1尺6寸、四角台、やぐら台は買う必要はないということで良いか。太鼓用ばち30組というのはいかがか

【五井野委員】

児童数から考えると、おそらく30組というのは使いまわしだと思ふ。保倉川太鼓がクラブ活動で教えたときは、会員がそれぞれ所有している個人のばちを消毒してから子どもたちに使ってもらっていた。そのような対応をされるのであれば、公費でばちを購入してもいいかと思うが、金額的にも個人で買っていただいても良いのではないかと感じている。なお、並附締太鼓とあるが、これは、カタログを見ていただくとロープで締めてあるものである。締太鼓というのは、名前のおり締めないと高い音が出ない。締めれば締めるほど高い音が出るようになっているのだが、素人にはロープは締められない。なので、私はいらないと判断している。我々が持っている締太鼓にはロープ締めはひとつもなく、全てボルトで締めている。ボルトであれば、スパナを使えば誰でも使える。ロープというのは専門的な締め方があり、この太鼓は比較的安い、小学校では使いこなせないと思ふ。

【藤田会長】

締太鼓以外は保倉川太鼓で貸付できるということになると、全て必要ないということになる。それでは、「浦川原小学校環境整備事業」については不採択ということによいか。不採択について賛成の方は挙手願う。

(委員が挙手)

それでは、全員ということで、不採択とする。

その他に意見はあるか。

【五井野委員】

「UMAファミリーコンサート事業」について、合計値の順位が下から2位である。最下位の「印刷等に係る地域活性化事業」について先ほど会長は不採択でよいと思うとおっしゃった。私も、順位が12番なので、これに賛成である。そして、ファミリーコンサート事業は、11番という順位のもので、満額採択なのはいかがなものかと思う。特記事項に記載の「コストダウンと自己資金の調達を以前から指摘されているが、その改善が見られない。」という意見は私が書いたものである。昨年からではなく、複数年前から言われていることである。チラシも昨年と全く同じ額で出てきている。昨年は、採択の際に、「コストダウンを図るように」と付帯意見が出されていたはずである。「コストダウンを検討せよ」ではなく、「図ること」とされていたが、その年については、事業内容を変更できないので仕方ないと思うが、今年の提案についても、コストダウンを一切図っていない。私も、NPO法人夢あふれるまち浦川原が購入した印刷機を利用すれば、この見積書よりもはるかに安く済むのでそれでいいと思う。また、一部数字合わせはあるようだが、自己資金を投入することも一切書かれていない。このほか、「地域活動支援事業を活用している」という文言をチラシに記載するようにお願いしても、それを忘れる。指摘されたことを一切やらないのは、私は提案団体として無責任すぎると思って、不採択としてよいのではないかと記入した。減額するのであれば、まだ納得できるが、満額とする理由はわからない。

【藤田会長】

これについて、ほかに意見はあるか。

いずれにしても、イベント関係については厳しい指摘はあるが、ある意味では、育てるといっても必要な部分があるのではないかと考えている。したがって、イベントの予算を全くつけずに不採択とするのはいかがなものかと考えている。それなりの計画であるので、団体を育成していくことも大事なことだと思う。この点について、慎重に審議いただきたい。

【池田副会長】

特記事項の「入場料ではなく当日の寄付金、募金をつのり、資金繰りをしたらどうか」というのは私の意見である。五井野委員が言われるように早く自立してほしいというのは、団体が設立されて2年目くらいからずっとお願いしているが、なかなか具体策としてあらわれてきていない。ただ、だからと言って不採択とするのはいかがかと思う。例えば、多少減額なり、要望として特記事項を付記するなどして減額になっても採択してあげたいという気持ちである。それと、昨年あれだけ、山本ぶどう園で野外コンサートをしようと言っていたのに、今年はその話は出てこなかった。これはやはり大きな指摘に値するだろうと思っているが、

不採択にするのは賛成できない。

【春日委員】

私も減額でどうかという意見である。今年度、役員が代わって引継ぎがうまくいってなかったのかという少し甘い視点で見えてはいたが、それにしてもずっと指摘されていたことが実行されていないということは、満額採択は無理ではないかと思う。減額して、その予算をどうやってやりくりするのか、そこから始まって、自分たちで工夫する策を講じていただきたい。育てるという意味でもそれが必要なのではないかと感じる。昨年、このコンサートを見に行ったが音楽を通していろいろな人との交流を深めて、どんどんその輪が広がっている。その様子を目の当たりにして、素晴らしい活動だと感じている。これからもっと自分たちで自己資本をもち、自覚を持っていただくためにも、減額して実施していただきたいと思う。

【藤田会長】

具体的に減額はどの程度を考えているか。根拠も含めてお聞かせいただきたい。

【相澤委員】

五井野委員の言われることはもっともだと思うが、昨年のコロナの影響下でも活動してきたことは、評価したいと考える。その中で、工夫してなかったのが、今のチラシだと思う。チラシの経費の半額程度を団体で工夫してもらってはどうか。経費を削るところはそこしかないと思っている。全くの手作りというわけにはいかないだろうが、安い印刷方法でやっていただくのが良いのではないか。ただ、山本ぶどう園については、非常に流動的であって、今年は大雪で大変な被害を受けて、しかも2年前にぶどう祭りをやめてしまった。そういう中で、ぶどう園でコンサートを開催しても人が来るのか、また、今年にあってはぶどう棚の復旧で地元の協力はまず得られないだろうと思っている。ただ、今後は実施したいという意向があるようなので、その際にはきちんと計画を立てていただくということで、今年はある程度知恵をしぼって、チラシを工夫してほしいと落としどころをつけてはいかがか。

【北澤正彦委員】

浦川原音楽協会については、私は当初会長から提案のあった満額採択で良いと思う。ただ、ひとつ気になっているのが、保倉川太鼓の5万円の減額とおっしゃっていたが、それはペナルティで5万円ということか。会長が5万円を減額するという根拠を教えてください。今のコロナ禍の状況でイベントを若い人たちがやってくれるというだけでも、かなり地域活性化の良い波になるのではないかと考えており、イベントに関しては浦川原音楽協会も保倉川太鼓も満額でというのが私の考えである。

【藤田会長】

保倉川太鼓の場合、当日の受取寄付金として、156,293円であった。この部分については、もっと増えて20万円くらいになるのだろうと思い、私としては5万円ほど減額しても良いのだろうと単純に思ったものである。

【北澤正彦】

要するに根拠はないということか。単純な会長の推測だということか。

【藤田会長】

そうである。いずれにしても、ファミリーコンサート事業についても根拠を示した上で減額していかないといけないと思っている。この部分については、減額して採用するというところでいかがか。その際に、チラシ3,000枚を半分程度としてもよいのではという意見もあったかと思う。

【五井野委員】

ファミリーコンサートについては、相澤委員が言うようにチラシの印刷費が高い。チラシだけでなくポスターも含めた見積もりになっているが約10万円である。自分たちで考えてチラシを3,000枚刷るのか、色数を減らすのか、チラシをNPOに頼むのか、そこでうまく考えていただくチャンスをあげるということで、5万円の減額でいかがか。

【藤田会長】

それでは、5万円を減額するということでよろしいか。

(会場内から「はい。」の声)

保倉川太鼓についてはどうか。

【相澤委員】

寄付金というのは、増えるかどうか分からないので、増えていただくようにしていただかないといけないと思うが、こればかりは、今のコロナの状況でどうなるか分からないので、できれば満額採択にさせていただいて、次年度また提案があった時に考えれば良いのではないかという気がする。今年は万全な体制はとれないだろうと思う。

【藤田会長】

では、減額しないということでよいか。

(会場内から「はい。」の声)

「浦川原小学校環境整備事業」は不採択、「UMAファミリーコンサート事業」は5万円の減額ということで、99万円が浮いてきた。この振り分けについて、先ほど申し上げたとおり、「防犯カメラを活用した防犯活動推進事業」の31万2千円、「地域防犯事業」の2

1万円の減額案がある。また、「浦川原中学校吹奏楽部支援事業」でどうプラスしていくかということで調整できると思うがいかがか。

【村松副会長】

その前に、会長が言われた「印刷等に係る地域活性化事業」について、確かに採算をとるには大変だが、利用する集落は私も含めてあると思う。長い目で見ると、お金は足りないけれど、その部分はNPO法人夢あふれるまち浦川原で頑張ってもらい、この事業に充ててはどうかというのが私の提案である。

【池田副会長】

基本的に不採択なり減額になって余ったお金をほかに振るとするのは反対である。適切な提案に対しては支援し、不適切な提案は不採択とする。そして最終的に余ったら2次募集を行えばよいというのが私の考えである。

【藤田会長】

池田副会長の言う不適切に当たらないのは、1の「防犯カメラを活用した防犯活動推進事業」、2の「地域防犯事業」、3の「浦川原中学校吹奏楽部支援事業」だと思う。余ったから印刷機購入に充てるというのはまずいのではないかと思う。それで、中学校の吹奏楽部については、優先順位で示していただいたので、私としては4点について優先したということである。もし、皆さんの了解が得られれば、この99万円については、中学校につければ賢明ではないか。

【村松副会長】

今の意見に反論するわけではないが、印刷機については藤田会長から不採択でどうかという提案があっただけで、皆さんが承認したわけではない。私は不適切な発言をしたとは考えていないので理解いただきたい。

【相澤委員】

印刷機については、お金が余ったから採択するわけにはいかないと思っていて、現在、コロナでイベントがあまりない。使用頻度が非常に低いわけなので、もう1年待って改めてきちんと提案し、良いものを買った方が私は得策だと思っている。もうひとつ、今の99万円が浮いたわけだが、吹奏楽部では楽器4台のところではっきり線を引いてあった。あれは、これだけ揃えられたらうまくいくという感じを受けてしまった。あの4台は揃えるにしても、その他は、いろいろな方法論で可能なのではないかと解釈している。ではどうするかと言った時に、池田副会長が言うように、もう一つ道を作ってあげるべきだろうし、小学校の件についても、理路整然と、子どものために伝統文化を継承するのだということが分かれば、あ

る程度承認せざるを得ないだろうと思うし、これを再チャレンジしていただくチャンスをあげるといふのも、ひとつの手でないかと思う。

【藤田会長】

議論を戻したくはないが、平成27年、28年かと思うが、中学校の吹奏楽部に楽器をそろえる時に、市が用意すべきであるという話がでたり、部活動は任意であるという話もあった。結果的には、浦川原で育てて、浦川原で貢献してくれる人たちを育てようではないかということで、楽器を整備することになり、300万円近い金額を3年間で採択して整備した経緯がある。以降、先生の指導の甲斐もあったのだろうと思うが、各イベントに出てきてくれて、拍手をいただけるような形になったし、大会でも良い成績までもっていったということがある。そんな中で、先ほど同窓会からも説明があったとおり、部員が24人に増え、せっかく入部したのに、楽器に触ることができないまま卒業するのでは、地域としては大変申し訳ない。したがって、できることなら地域活動支援事業を有効に利用していただいて、楽器に触っていただいて頑張ってもらいたいという思いで、皆さんから進めていただいている。したがって、140万円を減額でどうしてもほしい4台のほかに、2台くらいはお手伝いできるのではないかと考えて提案させていただいた。また、村松副会長が言うように、議論を前に進めるために案を示しただけである。

【五井野委員】

10の「印刷等に係る地域活性化事業」について、採択にするか不採択にするか決をとった方が前に進むと思う。

【藤田会長】

では、「印刷等に係る地域活性化事業」について、不採択とすることでよいか。

(会場内から「はい。」の声)

賛成多数ということで、不採択とする。

他の事業についても、採択の可否を聞きたい。1の「防犯カメラを活用した防犯活動推進事業」については、共同墓地に設置予定の防犯カメラ分31万2千円の減額ということによいか。

【北澤班長】

有島自治会から、設置数を減らした場合の見積もりがあると聞いており、電話で確認することができるがいかがするか。

【藤田会長】

確認をお願いします。

【北澤誠委員】

工事費について、一式となっているものについては、2台でも3台でもそう金額は変わらない。建柱費はもしかしたら引かないといけないかもしれない。

【藤田会長】

それから、2の「地域防犯事業」について、ワイヤレスアンプの経費21万円を減額するというのでよいか。

(会場内から「はい。」の声)

続いて、3の「浦川原中学校吹奏楽部支援事業」は、140万円の減額、4の「うらがわら雪あかりフェスタ」及び5の「第12回浦川原和太鼓祭」は満額採択、6の「浦川原小学校環境整備事業」は不採択、7の「防災士会だより発行事業」は満額採択、8の「UMAファミリーコンサート事業」は5万円の減額、9の「イベント・会議等に係る地域活性化事業」は満額採択、10の「印刷等に係る地域活性化事業」は不採択、11の『「和山・観音堂」トレッキングコース活性化事業』と12の『宿泊交流施設月影の郷「PRパンフレット作成」事業』は満額採択ということである。

【北澤班長】

有島自治会に確認した結果、共同墓地を除いた場合、96万8千円の工事費になるとのことである。当初の希望額から45万1千円の減額となる。

【藤田会長】

池田副会長の言う、振り分けしないという話よりは、全体の予算の中で45万1千円を減額したので、それを採択とした事業に加えても良いのではないか。

【池田副会長】

例えば、吹奏楽部の楽器は4台ほしいということだが、もう1台増やしても良いのではないかということか。それは良いと思う。

【藤田会長】

45万1千円を元に戻して、1の「防犯カメラを活用した防犯活動推進事業」を満額採択にしてはどうか。それから、2の「地域防犯事業」も満額採択にし、残額を全て3の「浦川原中学校吹奏楽部支援事業」にまわしてはどうか。

【池田副会長】

そうすると、中学校は209万8千円になり、採択事業の補助希望額の合計は540万円になる。

【北澤班長】

確認する。1の「防犯カメラを活用した防犯活動推進事業」は141万9千円で満額採択、2の「地域防犯事業」は39万円で満額採択、3の「浦川原中学校吹奏楽部支援事業」は、209万8千円で減額採択、4の「うらがわら雪あかりフェスタ」は13万円で満額採択、5の「第12回浦川原和太鼓祭」は66万円で満額採択、6の「浦川原小学校環境整備事業」は不採択、7の「防災士会だより発行事業」は7万7千円で満額採択、8の「UMAファミリーコンサート事業」は21万円で減額採択、9の「イベント・会議等に係る地域活性化事業」は15万4千円で満額採択、10の「印刷等に係る地域活性化事業」は不採択、11の『「和山・観音堂」トレッキングコース活性化事業』は18万円で満額採択、12の『宿泊交流施設月影の郷「PRパンフレット作成」事業』は8万2千円で満額採択となり、採択事業の補助額は540万円となる。

【藤田会長】

今事務局から計算していただいた。これでいかがか。

【春日委員】

最後になって、数字がばたばたと動いて、最初の審議は何だったのかという気がしている。私は、減額して540万円に達しない部分は2次募集を行った方がいいと思う。

【藤田会長】

まとめとして当てはめたというわけではなく、希望額に対して、議論を進める上で減額の提示をただけであって、決定ではない。

【池田副会長】

3の「浦川原中学校吹奏楽部支援事業」は、当初4台は欲しいということだったが、5台を支援するというので、5万円ほど自己負担になるが、それは工面できるだろうと思うので、私はこれで良いと思う。

【村松副会長】

私も今ほどの説明の採択金額で納得している。提案団体の希望額はどうしても必要な金額として提案されているのだから、減額しないで満額採択でいいと思う。

【藤田会長】

いろいろと議論いただいたが、ここで最終確認を行う。これまでの審議の上で出た金額について、同意いただいたと解釈してよいか。これについて賛成の方は挙手願う。

(挙手多数)

賛成多数と認める。事務局は、最終的な数字の確認をしてほしい。

【北澤班長】

1の「防犯カメラを活用した防犯活動推進事業」は141万9千円で満額採択、2の「地域防犯事業」は39万円で満額採択、3の「浦川原中学校吹奏楽部支援事業」は、209万8千円で減額して採択、4の「うらがわら雪あかりフェスタ」は13万円で満額採択、5の「第12回浦川原和太鼓祭」は66万円で満額採択、6の「浦川原小学校環境整備事業」は不採択、7の「防災士会だより発行事業」は7万7千円で満額採択、8の「UMAファミリーコンサート事業」は21万円で減額採択、9の「イベント・会議等に係る地域活性化事業」は15万4千円で満額採択、10の「印刷等に係る地域活性化事業」は不採択、11の『「和山・観音堂」トレッキングコース活性化事業』は18万円で満額採択、12の『宿泊交流施設月影の郷「PRパンフレット作成」事業』は8万2千円で満額採択。

不採択とした事業と減額して採択した事業について、今一度理由をまとめていただきたい。

【藤田会長】

「浦川原小学校環境整備事業」の不採択については、指導者がいないと継続性がなく、活動が立ち行かなくなるのではないかという心配、もう一つは、太鼓を購入することによって教育の一貫性が見えてこないということが大きな理由になる。これでよいか。

(会場内から「はい。」の声)

また、五井野委員に確認だが、太鼓を使用する場合は保倉川太鼓から借用してほしいと記載してよいか。

【五井野委員】

それでよい。

【藤田会長】

それでは、その点についても記載していただきたい。

次に、8の「UMAファミリーコンサート事業」について、当日、入場料という形でなくとも、寄付金を募るよう以前からお願いしてあった。また、事業内容についても、地域活動支援事業に頼るだけでなく自立できるようにしてほしいと繰り返し申し上げてきたが、その実行性が見られないということで5万円の減額とした。そのほかに加えることはあるか。

【春日委員】

特に、チラシの印刷について工夫してほしいということを加えていただきたい。

【藤田会長】

まとめると、これまで指摘してきた問題点などの改善が見られないこと、チラシのコストカットを図るなどをしてほしいということである。ほかにあるか。

【五井野委員】

3の「浦川原中学校吹奏楽部支援事業」の減額理由と、10の「印刷等に係る地域活性化事業」は不採択の理由が必要だと思う。

【藤田会長】

10の「印刷等に係る地域活性化事業」については、費用対効果が得られないこと、緊急性を要しないという理由である。

3の「浦川原中学校吹奏楽部支援事業」は、必要性は十分理解できるが、補助希望額が高額のため、他の事業との兼ね合いから満額採択は難しく、団体が示した優先順位によって一部減額したということである。

他にあるか。事務局でも何かあればお願いします。

【北澤班長】

不採択及び減額の理由について、事務局でまとめたものを正副会長に確認いただき、それをもって提案団体に通知するということでよいか。

(会場内から「はい。」の声)

【藤田会長】

それでは、正副会長におまかせいただきたいと思う。

【藤田会長】

他にあるか。無ければ、「4 その他」に移る。次回の地域協議会は、6月26日、土曜日の午前10時から、谷集会所で行う。

以上で第2回浦川原区地域協議会を閉じる。

9 問合せ先

浦川原区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 025-599-2301 (内線 305)

E-mail : uragawara-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。